



社会福祉法人世田谷ボランティア協会
世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン

TAKE FREE
2026 年 2 月号
No.262

セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

3・11 から 15 年目
「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」 まだまだ続けます！



せたがやキラリ人 P.6

～アンデスの風を日本に！～ 桑原 健一さん



せたがや
災害ボランティアセンターレポート P.7

区内で発生した豪雨被害に際し災害ボランティアが活動しました

おたがいさまビュー P.8-P.11

好きなことをボランティア活動にするヒントをさぐる交流会を開催します
ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ

3・11から15年目

「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」まだまだ続けます！



羽根木プレーパークにて全員で記念撮影

い公園で思いっきり外遊びをしてもらおうと考えたのが、「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」。その時から「福島」と「世田谷」が一直線でつながりました。

原発で作られた電気を

世田谷で使っている・・・

2026年3月11日は、東日本大震災、そして福島原発事故から15年。もう15年とも思いますが、福島の今の状況を考えれば、まだ15年という気がします。区内のさまざまなグループが「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」というネットワークを組んで、福島の子どもたちを世田谷に呼び、広

15年前の3・11、地震と津波による被害は甚大なものでしたが、とりわけ福島原発事故は、東京に暮らす私たちに大きな衝撃を与えました。私たちが東京で使っている電気を作ってきたのが福島の原発。そこに大きな事故が起こり、原発周辺に住む人たちはただちに避難すること余儀なくされました。3月15日、大量の放射能が風向きによって200キロ離れた東京にも降り注ぐ可能性があり、外出できなかったという緊迫感があったことを昨日のここのように思

い出します。

突然襲いかかった原発事故がいったい私たちの生活にどんな影響を与えることになるのか。まずはきちんと知りたいと思い、「世田谷こどもいのちのネットワーク」では、環境活動家の田中優さんによる講演会を開き、海や魚の汚染についてグリーンピース・ジャパンのスタッフの人たちの話を聞きました。夜の時間帯でしたが、あふれるほどの人たちが子連れで参加してくれました。誰もがこれから生きていく子どもたちのことを心配していました。

福島で一方向的に被害を被った子どもたちはどうなのか。参加者の中から沸き起こったのは、原発で作られた電気を大量に消費してきた東京に暮らす私たちが、せめて「福島の子どもたちにできることはないだろうか？」という切実な声でした。

その声をどうしたら実現でき

寄稿／星野 弥生（セボネ編集委員、福島の子どもたちとともに・世田谷の会代表）

ふくしまっ子リフレッシュin世田谷
2024年度 活動報告書



【左端】福島の子どもたちとふくしまっ子リフレッシュの会
【上端】世田谷 世田谷ボランティアセンターの会
【右端】世田谷ボランティアセンターの会
【下端】世田谷ボランティアセンターの会

ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷
2024年度活動報告書*

がってきた」と、保坂区長は当時を振り返ります。

「民」も「官」もむねのこころを

私たちが目指していたのは、福島の子どもたちが少しでも放射線量の少ない世田谷の公園で遊ぶという「保養」でした。「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」が事業名になり、区内の二か所の宿泊場所、「大蔵第二運動場」と高齢者の保養施設「ふじみ荘」の一部を期間中に使わせていただき、教育委員会を通じて、このプロジェクトへの支援を区民に広く呼び掛けるチラシを、区立小中学校、幼稚園・保育園、区内のさまざまな施設に配布することができたのです。

5万枚くらいのチラシを封筒に詰め、学校や園に届けていただきました（現在はオンラインでの発信になっています）。また、世田谷区社会福祉協議会は、街頭で支援のカンパをよびかけ、世田谷ボランティア協会はボランティアバスで世田谷と福島を結び交通手段を提供してくれました。チラシを

受け取った親たちからはカンパがよせられ、ボランティアを買って出てくださいる方々も。

こんなふうに「官」と「民」がそれぞれに出来ることを分担して2012年の春休みから始まった「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」、2025年の冬休みには28回目を迎えました。延べ参加人数は1400人以上になります。

最初の頃は、春、夏に各2回、冬に1回と年に5回も実施していましたが、その後は春、夏、冬の年3回、夏は世田谷ではなく猪苗代に世田谷の人たちが行った時もありました。2020年からはコロナ禍でやむなく断念。2022年冬に何とか再開し、今は春と冬の2回の実施です。

2か所の宿舎で毎回50人ほどをよぶことができていましたが、とても好評だった大きなお風呂のあるふじみ荘が取り壊しになり、使えなくなってしまうことは残念でした。そこを訪れる高齢者の方々が、「福島からよく来たねえ」と暖かく子どもたちに接してくださったことは忘れられま

*ご希望の方は、世田谷ボランティアセンターのチラシシラックにあります。
または「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」星野弥生まで。
(070-5554-8433)



小豆川先生のお話を全員で聞く

せん。

子どもたちに砧公園やたくさん冒険できるプレーパークなどで思いっきり遊んでほしいというのが私たちの思いでしたが、それだけでない、一緒に来る親たちにとってもここは「リフレッシュ」の場であることが、話し合いの中でわかってきました。「桜の花びらを触ってもいいよ、落ち葉を拾ってもいいよ、と子どもたちに言えるんだ」と涙を流して語ったお母さん。「福島では話せないことを一緒に語れる人たちがいる」と多くの親が言います。次第に福島が「住んでも安全

だから帰れる」と帰還を勧め、「なんで保養に行くんだ」と周囲から冷たい目で見られる、それでも子どもたち、自分たちがほんの数日間でも「自分を取り戻す」安心な時を過ごしたいと思う親たちが、世田谷で心を開いて語ることができ、そこから福島でのつながりに発展していきます。

世田谷めぐり、プレーパーク、福島の現状を知る講演会

プログラムの中で世田谷の魅力を知ってほしいと考えたのが、世田谷線の日乗車券を手にした「世田谷線ツアー」。三軒茶屋のキャロットタワーから富士山やスカイツリーを眺め、世田谷線を乗りついで、松陰神社、豪徳寺を訪れ、商店街で買いものをし、おしゃれなレストランでランチをし、沿線の公園で遊ぶ。私たちにとって「魅力」再発掘の時でもありました。

去る12月の冬のリフレッシュでは、全家族と一緒にプラネタリウムに行き、子ども向けのプログラムを大人たちも十分に楽しみまし

た。最後の日の夜の「お別れお茶会」の前には、2年ほど前から、福島と世田谷の人たちが一緒に学ぶ「講演会」を実施しています。福島でマスコミが伝えない「真実」を知ることが難しく、「世田谷で話をきいて初めて知りました」と驚かれることが多いのです。

今回は、3・11以降福島で放射線を測り続け、福島の今と未来を読み解く小豆川勝見先生。「見えない」「におわない」「感じない」、「感覚ではわからないもの」を見つけようと、セシウムが原発事故で飛び出し、それを除去する除染の作業にはとてつもない費用、時間がかかることなど、科学に基づく「事実」をとてわかりやすく楽しく話してくださいました。子どもたちも質問するほど引き付けられているようでした。

福島のお母さんたちは「子どもに知ってほしいと思っていたことを一緒に聴けたことが本当によかった。」放射能のことを子どもたちに話してこなかったけれど、正しい情報を得ること

は必要で、勉強になりました」と口々に語りました。小豆川先生は「子どもたち、将来研究者になりませんか？ セシウムの研究で世界一になるとか・・・」と子どもたちをその気にさせていました。

子どもたちにとって一番の楽しみは、羽根木プレーパークで過ごす一日。冬でも水浸しになり、ごろんこになって遊びます。大きなお釜でご飯を炊き、焚火の上では大鍋のハヤシライスがおいしい。3杯も4杯もお替わりする子どもたちも。事業のパートナーである世田谷区からは区長や災害



世田谷線ツアーで代官屋敷を訪れました

対策課の職員が訪れ、一緒にランチをする、というのも定例になっています。

12年前に7歳の時に初めて参加した綾乃さんは20歳になります。度々世田谷を訪れ、たくさんのお会い、思い出づくりをしてきた彼女は「参加の経験から人と人を結びたい、子どもにかかわる仕事をしたいと強く思うようになり」、春からは保育士になるそうです。嬉しいですね。これからはボランティアのスタッフになってくれるです。

改めてリフレッシュの意義を考える

ほんの数家族しか受け入れることができない「リフレッシュ」にどんな意味があるのでしょうか。原発事故の後、福島の人たちを受け入れる保養のグループが全国に広がりました。しかし10年が経つ頃から撤退していくグループも増えました。お金、スタッフ、場所、持続するにはいろいろな困難があります。「世田谷の会」も議論しながらここまで来ましたが、幸いなことに世田谷区が共に担って

れる事業でもあり、ともかく「続けたい」と思っています。国は「福島の事故はなかったこと」であるかのように、原発の再稼働をどんどん進めます。15年前の原発事故は、私たちの暮らし、生き方を根本から問うものでした。福島の子どもたちを世田谷に呼び、交流を続け、福島の現実を知っていく中で、原発回帰への動きなどはありませんと確信します。

26回目のリフレッシュの学習会で、短歌を通じて福島を詠む浪江出身の三原由起子さんのお話は、昨年の「セボネ」4月号で紹介しました。三原さんが新潟の柏崎刈羽原発の再稼働決定に、朝日新聞でこう語っておられます。「私たちの犠牲は、なかったことにされてしまうのでしょうか。福島から新潟に避難した人も多い。どんな思いなのか、心が痛みます」と。そう、なかったことにはしてはならない、絶対に忘れてはいけません。だからこそ、2011年の原点に返って、「リフレッシュ」活動を続けたいと思うのです。

せたがやキラリ人

世田谷区を中心に活躍する
キラリと光る素敵な方がたをご紹介します
取材・星野 弥生



アンデスの風を日本に！
桑原 健一さん
くわばら けんいち

3年くらい前、川崎のフリースペース「たまりば」で行われたフォークローレの演奏会で、髪を逆立てた桑原健一さんは、ステージ狭しと跳ねまわっていました。南米のポリビアから戻ってきた健一さんにとって、「たまりば」は故郷のようなところ。

生まれも育ちも玉川台の健一さん。小学校4年から、学校が好きでないなあと感じて不登校に。いくつかのフリースクールを訪ねた後、「たまりば」にたどり着きました。「同世代の気の合う人、話し相手がいいた」居場所です。ギターを見よう見まねで学び、いつかバンドをやりたいと思うようになった「たまりば」にチャランゴ

奏者のT O Y O 草薨^{くさな}さんが来るようになり、たまたま中古の楽器屋さんでチャランゴを見つけた健一さんは、思わずバイトで稼いだお金で買ってしまいました。それからT O Y Oさんのレッスンに顔を出し、大学でフォークローレのバンドをやろうかと、大学には行かずに東大の「民族音楽愛好会」に加わって2年間通いました。

3年目には大方の学生は就活しますが、健一さんはポリビアへの道を選びます。チャランゴを習おうと、2004年21歳の時に首都のラパスに降り立ちました。航空券のオープンチケットを無駄にしないので、1年で日本に戻り、しばらく音楽活動。CDなども作って、2007年にもう1年。3回目は2011年1月から2018年12月まで。ポリビア生活は合わせて10年になりました。ポリビアではグループや一人での音楽活動、日本語教師、通訳などの仕事をしていました。

ホームステイ先で出会ったエリカさんと2011年に結婚し、

世田谷に戻って来た時には、息子の龍星くんは小学校1年になっていました。日本では主に「3人アンデス」、「東京リヤマ計画」という面白い名のグループで全国ツアーを展開しています。

ポリビアで日本人の演奏家としてテレビに出演した時に髪を逆立てて目立つようにしたのが今もずっとトレードマークに。ステージで元気に跳びはねる「芸風」も、テレビ映えのために跳んでいるうちにだんだんエスカレートし、チャランゴを縦に持って跳ねまわります。あまり跳ばないと「大丈夫？元氣？」と心配されるそう。観客もつられて動き一体感が生まれます。全国ツアー中の2月には世田谷でも「東京リヤマ計画」のライブがあります。

不登校から「たまりば」、たまたまチャランゴと出会いポリビアへ、家族とともに日本に。42歳の健一さんのたどってきた道は、まさに「出会いをものにして生きるちから」で生きてきた人生。心から拍手を送りたいです。

<演奏予定>

【日時】 第一回 2/14(土)18:00 開演、第二回 2/15(日)14:00 開演
【場所】 サローネ・フォンタナ (世田谷区祖師谷4-9-24)

【料金】 (各回) 一般 3,500円 / CD付きプラン 5,000円 (学生 1,000円引き)
※詳細は右記二次元コードからご確認ください。



せたがや災害ボランティアセンターレポート

区内で発生した豪雨被害に際し 災害ボランティアが活動しました

昨年11月号の本誌で既報のとおり、昨年7月と9月の豪雨により区内でも主に玉川地域と世田谷地域で大きな被害が発生しました。

せたがや災害ボランティアセンターは、発災直後から相談を受け付けて現地調査を開始し、被災家屋の水抜き、物品の移動やごみの運び出し、清掃や乾燥、消毒などの支援活動を行いました。

被災された方からのボランティア依頼件数は7月豪雨で延べ18件、9月豪雨で延べ57件にもなり活動したボランティアの人数は7月豪雨で延39名、9月豪雨で延べ212名に達しました。活動期間も12月末まで及びました。

特に9月の豪雨では隣接する目黒区や大田区、さらに品川区なども含め広い範囲に甚大な被害があった中、世田谷区では、2019年多摩川水害や7月の被害への対応を教訓として各地区のまちづくりセンターとの連携を強化していたこともあり、迅速かつ

柔軟な活動を行うことができました。

活動にあたり、世田谷区、世田谷区社会福祉協議会をはじめ、登録ボランティアやボランティアコーディネーター、協力協定締結大学、資機材を提供いただいた団体（昨年11月号の本誌に掲載）など多くのご協力をいただきました。特に今回は世田谷区内が被災場所となったため、地域拠点（サテライト）を立ち上げることなく多数のボランティアが地元から参加され、専門技術を有する方々と共に活動することで多くのノウハウを提供いただき、全体のスキルアップにもつながりました。

このように多くの力の結集により被災された方に寄り添った的確な支援を行うことができ、共助の力の大きさを実感する機会となりました。被災された方々から多くの感謝の声をいただいていますので、

併せて報告いたします。今回は、災害ボランティアセンターを常設する強みを発揮して被災者の生活再建に寄与できましたが、当センターとしても今後の活動で得た教訓を今後の備えに繋げていきます。

気候変動の影響もあり台風や大雨の被害が激甚化している今、区内の誰もが被災する可能性があると言わざるを得ません。今後、ご自宅が被災された場合や、ご近所でお困りの方がいらしたら、ご相談ください（「り災証明」の有無は問いません）。



**水害発生時
ボランティアが
お手伝いします**



災害時特設電話
03-5712-5101
080-7932-3683

電話受付 **9:00～17:00**
(月曜・祝日は休務)

家のそうじ



浸水した壁の内側の
清掃・消毒



庭の泥だし



家財の搬出



床下の汚水排出
清掃・消毒



2019年台風19号の被害で被災した世田谷区ボランティア活動実績があります。

社会福祉法人世田谷ボランティア協会
せたがや災害ボランティアセンター
世田谷区との協定により、区内での災害ボランティアの活動に携わっています。

＜相談先＞せたがや災害ボランティアセンター
TEL: 03-5712-5101 (9時～18時 月・祝休)
e-mail: saigai-info@otagaisama.or.jp

災害ボランティアとして活動を希望される方は、
右記二次元コードよりご登録をお願いいたします。



マーマレードづくりのボランティア募集

誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを目指す、NPO 法人コミュニティ・ネットワーク・ウェブでは、マーマレードづくりのイベントを行います。一緒にマーマレードを作りましょう。できあがったマーマレード 1 個をお持ち帰りいただけます。

- 日時／1/25、2/1、2/8、2/22、3/1、3/15、3/22 いずれも日曜 10 時～15 時
- 場所／ウェブ分室（弦巻 2-39-11）
- 交通／東急田園都市線桜新町駅下車徒歩約 10 分
- 条件／持ち物：エプロン、頭にかぶる帽子やバンダナ。昼食付き。
- 問合せ／NPO 法人コミュニティ・ネットワーク・ウェブ 担当：一宮（いちみや）
TEL：070-5457-7781

視覚障害のある方の散歩同行ボランティアを募集

視覚障害のある 70 代の女性が散歩をする時に同行していただけるボランティアを探しています。（途中、喫茶店や食堂に寄る場合があります）女性は多くのボランティアの方と接している方ですので、ボランティアが初めてといった方も安心してご参加いただけます。詳しくはお問合せください。お問い合わせお待ちしております。

- 日時／月・木・土・日曜のいずれか 11 時～15 時頃
- 場所／小田急線千歳船橋駅周辺
- 条件／休憩や昼食時の費用の一部を支給します。
- 問合せ／砵ボランティアビューロー準備室 担当：池田
TEL：03-6411-4007 メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

小学校 3 年生といっしょに勉強をしてくれる女性を募集

駒沢公園近くにお住まいの小学校 3 年生の女の子が特に漢字で苦戦しています。明るい女の子です。宿題などに楽しく取り組めるよう、女の子のペースに合わせて一緒に勉強をしてくれる方、ご連絡お待ちしております。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月・火・木・金曜の 16 時～17 時（月 2～4 回 1 回 1 時間）
- 場所／自宅
- 交通／東急田園都市線駒沢大学駅
- 条件／女性（数名募集）、交通費相談
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当：市古（いちご）
TEL：03-3707-3528 メール：tamabora@otagaisama.or.jp

世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いずみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。

ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は世田谷区公式ホームページから、ページ ID に 3587 を入力してご覧ください。

- 日時／月 1～2 回、日曜の 9 時 50 分～15 時 30 分
- 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校の 3 ヶ所で実施（外出行事もあります）
- 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩 10 分
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩 8 分
芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩 8 分
- 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 いずみ学級担当
TEL：03-3429-4259

小学校 1 年生の送迎ボランティア募集

知的障害がある小学 1 年生の女の子の朝の送迎を手伝ってくださる方を募集しています。自宅からバス停（環八沿い）まで徒歩で付き添ってくださる方を探しています。できれば障害のある方と接したことがある人を希望しています。いずれの曜日でも構いませんので、少しでもお手伝いくださると助かります。お気軽にお問い合わせください。

- 日時／月、火、水、金曜のいずれか（週 1、隔週でも OK）。朝 7 時 45 分～8 時 30 分頃
- 場所／自宅（南烏山、京王線千歳烏山駅から徒歩 5 分ほど）から環八沿いのバス停まで
- 募集人数／数名
- 条件／女性希望、優しく接してくださる方。報酬 1,200 円 / 回（予定）
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL : 03-6909-0333 メール : karasubora@otagaisama.or.jp

小学校 5 年生男児の送迎ボランティア募集

知的障害がある小学 5 年生の男の子の朝の送迎を手伝ってくださる方を募集しています。自宅からバス停（甲州街道沿い）まで徒歩で付き添ってくださる方を探しています。車につけていただき、側で見守りながら同行をお願いいたします。いずれの曜日でも構いませんので、お手伝いくださると助かります。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月、火、水、木、金曜の朝 8 時 10 分頃～8 時 25 分頃（週 1～でも OK です。）
- 場所／自宅（南烏山）から甲州街道沿いのバス停まで徒歩で
- 募集人数／1 名～数名
- 条件／報酬 1,200 円 / 回（予定）
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL : 03-6909-0333 メール : karasubora@otagaisama.or.jp

【急募】NPO フリースクール僕んち：有償スタッフおよびボランティアの募集

学校以外の、子どもの自由な学び・育ちの場。不登校を選んでいる子どもの選択肢のひとつ。自分らしく、伸び伸びと過ごせる居場所「僕んち」では常に、子どもや若者と寄り添い、「元気や元気」を分かち合え、一緒に何かを産み出せる人材を求めています。具体的には、ものづくり・料理・ゲーム・多様な学び・アウトドア・合宿・キャンプなどなど、多岐にわたります。資格や肩書は要りません。あなたらしい魅力で「僕んち」を手伝ってくださる方を募集しています。ご興味のある方のご連絡をお待ちしています！

スタッフ候補として興味をお持ち方：採用を前提としたインターン生になっていただくこともできます。詳細はお問い合わせください。

- 日時／火曜・金曜の 10 時～17 時
- 場所／フリースクール僕んち（代田 4-32-17 サンハイツ B）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅徒歩約 10 分
- 問合せ／フリースクール僕んち 担当：高橋

TEL : 090-3905-8124 メール : bokunchi.fs@gmail.com

北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ

北沢ボランティアビューローの改修工事は順調に進んでいます。仮事務所では、会議室の貸出を休止していますが、他の窓口業務は行っています。

- 仮事務所での執務／2026 年 3 月まで（予定）
- 場所／世田谷区梅丘分庁舎（松原 6-3-5）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅北口下車徒歩 2 分
- 開館日と時間／月～金曜 10 時～17 時
- TEL : 03-3420-2520 FAX : 03-3706-2854 メール : kitabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は 1 月 17 日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

リサイクル市（バザー） 提供品受付のお知らせ@世田谷ボランティアセンター

世田谷ボランティア協会では、みなさまからご提供いただいた品物をリサイクル市（バザー）で販売し、その売上金を世田谷ボランティア協会が行うボランティア活動推進のための、さまざまなプログラム運営費用にあてさせていただきます。ご協力をお願いします。

- 回収日時／2月7日（土）10時～17時30分
- 回収対象／衣類、帽子、カバン、ベルト、ハンカチ、アクセサリー、靴下（未使用）、生活雑貨、おもちゃ、ぬいぐるみ 他
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅下車徒歩約12分
- 会場／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101

もっと語ろう不登校 part.308

これまで31年間にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／2月7日（土）14時～
- 場所／人の泉・オープンスペース "Be!"（赤堤1-15-13）、または ZOOM にて
- 交通／小田急線豪徳寺駅・世田谷線山下駅下車徒歩約7分
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 佐藤
TEL：090-9248-1355 メール：yurinoki11513@gmail.com

バザー開催&ボランティア募集@玉川ボランティアビューロー

玉川ボランティアビューローでは、恒例のバザーを開催します。収益はボランティア活動推進費として大切にに使わせていただき、「おたがいさま」で結ばれた地域づくりに役立てます。皆さまのお越しをお待ちしております！バザーボランティアも募集中です。詳しくはお問合せください。

【バザー詳細】

- 日時／2026年2月21日（土）10時30分～14時
- 場所／玉川ボランティアビューロー（東急田園都市線・大井町線 二子玉川駅下車 徒歩約5分）
※駐車場はありません

【バザー ボランティア募集】

- ①会場設営ボランティア
日時／2026年2月16日（月）10時15分～12時30分
- ②バザー当日の販売・片付けボランティア
日時／2026年2月21日（土）10時～15時
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー
TEL：03-3707-3528 メール：tamabora@otagaisama.or.jp

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

好きなことをボランティア活動にするヒントをさぐる交流会を開催します

楽器の演奏、歌の披露や手芸、書道、華道、囲碁・将棋など自分の好きなことがボランティア活動として誰かに喜ばれることがあります。ボランティアを受け入れている団体や、個人で様々な活動をしている方の話を聴き、ボランティア活動を始めるヒントを見つけましょう！

参加の予定は、障害のある児童が使用する布のおもちゃ作りをする団体、障害のある方の余暇活動を支援している団体、環境系（布のリサイクル小物作り・生ごみの堆肥作りなど）の団体、在日の外国人に日本語を教えている方、居場所作りをしている方、個人の生活をサポートしている方など。

申し込み・問い合わせは「ボランティア交流会参加について」と記載し、メール・FAX、お電話でお願いいたします。定員になり次第締め切ります。パティオのある、素敵な高齢者のデイサービスの施設を会場としてお借りします。

- 日時／2月28日（土）13時30分～16時
 - 場所／成城パティオ（成城2-40-5）1階にソフトバンクが入る建物の3階
 - 交通／小田急線成城学園前駅徒歩2分
 - 参加費／300円 ●募集人数／16名
 - 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 池田
- TEL：03-6411-4007 メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

ちかくのとーく vol.12 三茶学 三茶でつくる、これからの仕事のこと

ちかくの活動をちかくの人に紹介するトークシリーズ「ちかくのとーく」。今年度は「三茶学」と称して、三軒茶屋エリアを3回にわたって掘り下げます。

今回のテーマは、「仕事」です。2019年に創業したコワーキングスペース「三茶WORK」の吉田亮介さん、2022年から本屋&ギャラリー&カフェ「twilight」（トワイライイト）を営む熊谷充紘さんをゲストに招き、三軒茶屋で仕事することについてお聞きます。また、会場ではまちづくりデザイナーの千葉晋也さんが板書で記録（グラレコ）しながら進行します。

- 日程／2月28日（土）14時～16時
 - 会場／生活工房 ワークショップルーム B（太子堂4-1-1 キャロットタワー4階）
 - 交通／東急田園都市線・世田谷線 三軒茶屋駅 直結
 - 参加費／会場200円、オンライン（Zoom）無料
 - 定員／会場20名／オンライン100名（先着）
 - 申込／右記の二次元コードを読み込み、お申込みください。
 - 問合せ／公益財団法人 せたがや文化財団 生活工房
- 担当：佐藤 メール：info@setagaya-ldc.net



AI システムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版G B E R 「ジーバー」）で結び付け、経験や希望に合ったボランティア活動を紹介します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は1月17日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
障害について ▶ 【ぼーとせたがや、スペース ココカラ。】

協会職員大募集/
作業療法士 訪問介護員
支援員 相談員

寄付で社会を
ご寄付のお願い

お支払い方法が
選べます。

- ・ クレジットカード
- ・ Amazon Pay
- ・ 銀行振込

寄付金控を受けられます



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。